

その後の河崎家歴代

2 重員 [鍵之助・小十郎・七左衛門・三郎助] 家督1716～1727年

切米25石5人扶持→知行100石→知行150石

家督前に切米取の御小姓として召し出され、のち100石の知行取に。
家督相続時に父の知行150石を相続。大番組筆頭となる。

3 勝承^{かつ つぐ} [十之助・左助・三郎助] 家督1727～1788年

15人扶持→知行100石→知行150石

2歳で家督、規定により扶持方。長じて知行100石を下され御小姓に。のち要職の御奉行に就任、役料150石が付与。御先物頭、御広敷御用人を歴任して知行50石を加増された。

4 勝熙 [仲六・小十郎・三郎助] 家督1788～1804年

知行150石

5 榮壽^{よし ひさ} [増吉・清兵衛・三郎助] 家督1804～1855年

知行150石→切米25石5人扶持→17人扶持→知行100石

御小姓や御近習など藩主の側近くに仕え、のち要職の御奉行に。
不埒^{ふ ち}至極^{し ごく}の義により知行を召し上げられて切米取、扶持方となる
も再度知行100石を下され、御奉行に再任された。

6 致高 [房次郎・三郎助] 家督1855～1869年

知行100石

御近習として松平春嶽の側近くに仕える。歌人・橘曙覧の門人で
春嶽と曙覧の仲介役も担った。篆刻^{てん かく}の名人。

7 勝壽 [熊治] 家督1869年～

知行100石→現米60俵4斗3升6合

藩制改革直後に家督、常備兵となる。給与改革により現米支給に。

*よみは「河崎家系図」に記載のあるもののみ付した